

レオ・ヌッチ 最後の来日

オペラ界の頂点の全てが、
ここに凝縮される！

2024年2月のコンサートで大喝采を浴び、「歴史に残る」と評されたレオ・ヌッチ。
そのラスト公演は、ヌッチ企画監修の宮廷スタイル・コンサート。
《椿姫》と《リゴレット》の2演目による最後の来日を実現する。

※キャスト変更がありました

出演 バリトン…レオ・ヌッチ

ソプラノ…エンケレーダ・カマーニ

演 奏…アンサンブル・ヴェルディ



チケット料金(税込) 全席指定 S席 28,000円/A席 23,000円/B席 18,000円/C席 14,000円

チケット取扱い

●楽天チケット：公式サイト <https://r-t.jp/nucci>

●ぴあ ●イープラス ●サントリーホールチケットセンター



主催 楽天チケット株式会社 後援 イタリア大使館

協力 株式会社豊島屋、明神テクノ株式会社

企画 三本珠理



チケット好評発売中!

【問合せ：楽天チケット ticket-concert@mail.rakuten.com】

【注意事項】※未就学児はご入場頂けません。※プログラム、演出などが変更となる場合がございます。※公演中止の場合を除き、ご購入されたチケットは理由の如何を問わず、変更、キャンセル、払戻はお受けできません。※場内での写真撮影・録音・携帯電話等の使用は固くお断り致します。※金額に関わらず、転売サイトでご購入を頂いたチケットではご入場することはできません。※開演に遅刻された場合には、入場できるタイミングまでお待ちいただく場合がございます。※購入時、チケット代の他にシステム利用料等、各種手数料が必要となります。※中止等の場合、返金できない手数料もございますので、予めご了承ください。※キャスト変更に伴う払い戻しはございません。

2025

11.9 (日)

13:30開演(12:45開場)

サントリーホール
大ホール

ヴェルディ…歌劇
《椿姫》&《リゴレット》
ハイライト

想像を絶したあの感動を最後にもう一度！



© Mirella Verile

レオ・ヌッチ (バリトン)

Leo Nucci, baritone

1942年4月、伊ボローニャ近郊のカスティリオーネ・デイ・ペーボリで生まれる。15歳で才能を見出され、自動車修理工場で働きながら声楽を習得。初舞台は1965年で、本格デビューは67年、ロッシーニ《セビーリヤの理髪師》のフィガロ。その後、ミラノスカラ座の合唱団員として基礎を固め直し、クラウディオ・アッパードに見出されて77年、フィガロ役でスカラ座にデビュー。以後は世界の一流劇場を次々と席卷し、瞬く間に国際的スターになった。いまでも語り草の名演には、1989年のザルツブルク音楽祭におけるカラヤン指揮・演出のヴェルディ《ドン・カルロ》などがある。

60年にわたるキャリアで、ヴェルディ、プッチーニ、ロッシーニ、ドニゼッティ、チレーア、ジョルダノ、モーツァルトなど60を超えるレパートリーを誇る。とりわけヴェルディの歌唱では当代最高のバリトンの名をほしいままにしてきた。なかでも当たり役の《リゴレット》の公演回数は、優に1000回を超える。80歳を超える現在でも絶対的な歌唱を聴かせることは、2024年2月の公演で証明されたとおりである。

アンサンブル・ヴェルディ (演奏)

Ensemble Verdi

～ イタリアからの精鋭演奏家たち！～



れほどのパフォーマンスで打ちのめされることなど、もうないのではないかと思った。2024年2月、まもなく82歳になるレオ・ヌッチの歌唱は、会場を埋めた聴衆のほとんどの想像を、おそらく大きく超えていた。私自身、心を激しく揺さぶられ、割れんばかりの拍手と歓声を投げかけた。そのうえ涙が止まらない。

1990年代から、ヌッチの歌唱を内外で幾度となく聴いてきた。80年代にはすでに、世界のオペラ界で特別な存在だったヌッチ。その力強くノブールで柔軟な歌声は、60歳を超えても、70歳を超えても、衰えを見つけないのが難しく、そのたびにヌッチを超えるバリトンはいないと思われた。しかし、80代でのこの水準は想像しなかった。

オーケストラを突き抜ける力強い声が、まったく力まず発せられ、若手にも到底真似できない高密度で品格がある響きがホールを満たす。歌に込められた心情は重ねた年輪に比例して深まっており、堅固に維持されている歌唱フォームが、それを漏らさない。前回も印象的だった《リゴレット》の表題役と《椿姫》のジェルモン。今度はオペラのハイライトとして重唱まで聴ける。

客席で打ち震えるあの体験。泣いても笑ってもラストチャンスである。

香原斗志 (オペラ評論家)

キャスト変更のお知らせ

< レオ・ヌッチからのメッセージ >

今回の公演は熟慮の末、父と娘の関係性に焦点を当てたプログラムにすることにしました。この関係性は、ヴェルディが芸術家としてのキャリアのなかで、最も深く描いたテーマのひとつです。ヴェルディ自身の、妻と子を失ったという個人的な経験は、彼の作品にまちがいなく大きな影響をあたえていると思います。そして、いうまでもありませんが、このテーマの重要性は、現代においても変わりません。

ぜひ、このプログラムに期待してください！

※上記の趣旨により、ヌッチと共演する歌手はエンケレーダ・カマーニのみが来日することになりました。

エンケレーダ・カマーニ (ソプラノ) Enkeleda Kamani, soprano

～ 情熱を内包したみずみずしい声 極上のジルダ・ヴィオレッタ ～



優雅に飛躍する洗練された歌唱を誇るアルバニア生まれのソプラノ。2015年にティアラ芸術大学を卒業する以前から、国際コンクールでの優勝を重ね、アルバニア国立歌劇場で歌唱経験を積んだ。飛躍したのは2017年で、「若手オペラ歌手のための国際AsLiCoコンクール」に優勝し、《魔笛》のパミーナをベルガモ、クレモナなど各地で歌う機会を得た。続いてミラノスカラ座研修所に合格し、種々の役を経験する。なかでもダニエル・オーレン指揮の《リゴレット》のジルダ役で、レオ・ヌッチと共演したことは特筆される。以後、主要歌劇場で《ランメルモールのルチア》の題名役、《仮面舞踏会》のオスカル、《アルジェのイタリア女》のエルヴィーラ、《椿姫》のヴィオレッタなど、重要な役にデビューを重ねている。なかでもジルダ役はトレヴィーゾ、フィレンツェ、ジェノヴァなどで経験を積んでいる十八番。息と一体になった自然な美声に、極上の艶と倍音を添えて聴かせるだろう。